

NHK 文研の

BUNKEN Broadcasting Culture Research Institute

フォーラム2020

メディアの真価とは？

世界的にメディアへの信頼が揺らいでいます。一人ひとりの心に届き、心を動かす情報をどのように届けばいいのでしょうか？
求められるメディアの真価について考えます。

DAY1

3/4 [水]

リアル 日本人

A

研究発表
13:00~

何みてる？令和の子どもたち
最新データが語る 幼児向け映像コンテンツのミライ

B

研究発表
15:00~

仕事も家庭も楽しめない日本人!?
国際比較調査から見える日本人の姿

DAY2

3/5 [木]

フェイク 信頼

C

ワーク
ショップ
10:00~

NHKアーカイブスに公共メディアの
価値を探る 認知症ケアと学術利用の事例から

D

研究発表/
シンポジウム
14:00~

SNS時代の誤情報・虚偽情報とメディア
"フェイク"にどう向き合うのか

DAY3

3/6 [金]

メディア これから

E

ワーク
ショップ
9:30~

市民が描く「戦争体験画」の多様性と
可能性 地域放送局に寄せられた4900枚の絵から

F

シンポジウム
13:30~

これからの「放送」はどこに向かうのか？
本質的な論点に向き合うために

G

シンポジウム
16:00~

情報が氾濫する中での「信頼とつながり」
"市民とともに" 歩むジャーナリズムの試み

2月3日(月)より、文研ホームページで申し込み受付 (参加無料)

<https://www.nhk.or.jp/bunken/forum>

先着順：定員に達したプログラムから順に募集を締め切ります。

会場：千代田放送会館 (千代田区紀尾井町 1-1)



主催：NHK放送文化研究所

3/4 DAY1 [水] リアル 日本人

A 研究発表 13:00 ~ 14:40

何みてる？令和の子どもたち 最新データが語る 幼児向け映像コンテンツのミライ

従来のテレビに加え、録画、DVD、ネット動画など多様化する幼児向け映像コンテンツ。視聴するデバイスや時間帯、母親の意識にも変化が？最新データをもとに、幼児向け映像コンテンツのこれからを考えます。

ゲスト：飯田佳奈子（テレビ東京 コンテンツ統括局 プロデューサー）／中村貴子（NHK編成局 編成主幹 Eテレ・ラジオ第2編集長）
報告：山本佳則／吉藤昌代（文研・世論調査部 研究員） 進行：阿曾田悦子（文研・世論調査部 研究員）

B 研究発表 15:00 ~ 16:30

仕事も家庭も楽しめない日本人!? 国際比較調査から見える日本人の姿

約40の国と地域が加盟する国際調査グループISSP。毎年、世界同時に行っている世論調査から見えてきた仕事も家庭も楽しめない日本人の姿について報告し、日本の社会が抱えている問題について専門家と考えます。

ゲスト：白河桃子（相模女子大学客員教授、ジャーナリスト）／常見陽平（千葉商科大学専任講師、働き方評論家）
報告：村田ひろ子（文研・世論調査部 主任研究員） 進行：村田英明（文研・世論調査部 副部長）

3/5 DAY2 [木] フェイク 信頼

C ワークショップ 10:00 ~ 12:30

NHKアーカイブスに公共メディアの価値を探る 認知症ケアと学術利用の事例から

100万本の番組、800万項目のニュース。NHKが保有する貴重な映像を、公共財として活用できないか。「回想法ライブラリー」「学術利用トライアル研究」の試みから、放送アーカイブスの可能性を探ります。

パネリスト：来島修志（日本福祉大学 助教）／梶原 均（NHK知財センター長）
研究発表：「学術利用トライアル」を活用した研究者のみなさん 進行：大高 崇（文研・メディア研究部 研究員）

D 研究発表・シンポジウム 14:00 ~ 16:40

SNS時代の誤情報・虚偽情報とメディア “フェイク”にどう向き合うのか

誤情報・虚偽情報は、いまやSNSで瞬時に、爆発的に拡散するようになりました。それらの中には、人びとの安全を損なったり、民主主義社会の健全な世論形成を蝕んだりするものもあります。メディアはどう向き合うべきかを考えます。

パネリスト：遠藤 薫（学習院大学 法学部教授）／古田大輔（ジャーナリスト、メディアコラボ代表）／
リチャード・パージェス（BBC国内ニュース取材部長）／足立義則（NHK報道局 ネットワーク報道部 副部長）／
福長秀彦（文研・メディア研究部 特任研究員） 進行：柳澤伊佐男（文研・メディア研究部 副部長）

3/6 DAY3 [金] メディア これから

E ワークショップ 9:30 ~ 12:00

市民が描く「戦争体験画」の多様性と可能性 地域放送局に寄せられた4900枚の絵から

NHKでは、自らの戦争体験を描いてもらおうという呼びかけを、地域放送局が主体となって実施してきました。寄せられた絵は約4900枚。誰もが映像を残せる“スマホ時代”に、1人1人が体験を描く意味と可能性を議論します。

パネリスト：齋藤亜矢（京都造形芸術大学准教授）／大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所主任研究員）／田中禎昭（専修大学文学部准教授）
報告：井上裕之（文研・メディア研究部 上級研究員） 報告・進行：吉田 功（文研・メディア研究部 研究員）

F シンポジウム 13:30 ~ 15:30

これからの“放送”はどこに向かうのか？ 本質的な論点に向き合うために

メディア環境や社会環境が変化中、ここ数年、放送政策を巡る議論が続いています。その議論はどこまで本質的な論点に迫れているのでしょうか。アカデミズム側からの問題提起をもとに考えます。

パネリスト：宍戸常寿（東京大学大学院 法学政治学研究科教授）／林秀弥（名古屋大学大学院 法学研究科教授）／
西田亮介（東京工業大学 リバラルアーツ研究教育院准教授） 報告・進行：村上圭子（文研・メディア研究部 研究主幹）

G シンポジウム 16:00 ~ 18:00

情報が氾濫する中での「信頼とつながり」 “市民とともに” 歩むジャーナリズムの試み

情報が氾濫する社会でのメディアの役割は？ 読者・視聴者との関係を「オーディエンス」から「パートナー」へと見直し、人々が必要とする情報、信頼できる情報の発信をめざすジャーナリズムの新たな試みを探ります。

パネリスト：リチャード・パージェス（BBC国内ニュース取材部長）／
ジェシカ・マリア・ロス（カリフォルニア州公共ラジオCPRエンゲージメント戦略責任者）／
坂本信博（西日本新聞社『あなたの特命取材班』キャップ）／細田直樹（NHKクローズアップ現代+ チーフ・プロデューサー／オープンジャーナリズム）
報告・進行：青木紀美子（文研・メディア研究部 研究主幹）